

校 園 名：宮城教育大学附属中学校

所在地：〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉6丁目4番1号
電話番号：022-234-0347

記載日：平成28年5月20日 記載者：齊 隆 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

- ①自主、協同、明朗を校訓とし、創立70周年を迎えた。
- ②昭和22年、宮城師範学校男子部附属中学校、同女子部附属中学校として創設され、昭和25年、東北大学宮城師範学校附属中学校、昭和26年、東北大学教育学部附属中学校、昭和42年、宮城教育大学教育学部附属中学校、平成16年、国立大学法人宮城教育大学附属中学校となる。
- ③宮城県内の中学校教育の先導的、先進的モデルとして、大学との共同研究を進めており、年1回公開研究会においてその成果と課題を公表している。
- ④学習意欲の高い生徒、それを支える保護者が多く、教育研究、教育実習への理解が深い。
- ⑤温和な生徒が多く、落ち着いた学校生活となっている。授業はもとより行事への取組も積極的に集中しており、結果的に短時間の中で成果を上げることになっている。
- ⑥生徒は自由に自分の力を発揮する機会が多いことから、伸び伸びと過ごしている。
- ⑦宮城県教育委員会、仙台市教育委員会との人事交流により教員が配置されており、人事交流による効果への期待が高い。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 追跡調査はしていない。
- ② 進学先の学校からの連絡、マスコミ報道、保護者・同窓生等からの情報による。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 追跡調査をしていない。公立学校管理職、教育委員会指導主事等で活躍している。
- ② 勤務経験者と年に1回の親睦会を開き、相互の親睦を図るとともに、情報交換をしている。
- ③ 県教委等との人事交流の会議において、勤務状況等を話題にしている。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

- ①公開研究会では、提案を実践する授業として全教科（新設教科を含め10教科）で実施し、講演会では最新の教育事情を直接聞く機会となり、参観者にとって有益になっている。本校教員が、県、地区、市町村教育研究会において、役員、講師として活動し、県内の教育力向上に貢献している。
- ②研究開発学校指定を受け、新設教科を核とした教育課程の研究開発を行っている。次の学習指導要領のための基礎データの提供、新たな評価観点の提案等を行っている。
- ③宮城教育大学教育復興支援センターと連携し仙台市中学校長会が復興教育のため、記録となるDVDを作成し県内全中学校等へ配布した。その際に附属中学校が中心的な役割を果たした。
- ④附属校園で実施する講演会を近隣住民、仙台市内中学校、連携している県立高等学校に通知した。

⑤講演会として、生徒は最先端の分野で活躍している講師から直接話を聞いている。附属中学校の生徒だからこそ話をしたいという気持ちから講演をしていただいている。

⑥部活動ではなく、サークル活動して放課後に、スポーツ、文化、科学に親しむ機会を設けている。所属は任意とし、練習や活動の日数は他の公立中学校の半分程度である。

⑦ICT機器を活用した授業展開を積極的に行っている。電子黒板も特注サイズであり、教室に固定されている。タブレット、ノートパソコン等を生徒が自由に利用できる環境となっている。大学、関係団体との連携が図られている。

⑧附属小学校の協力校として、2つの県立高校とも連携し、小中高で一貫したcan-do形式でのカリキュラムを編成している。附属中学校の英語教員が県教委から中央研修に派遣され、英語教育のリーダーとなっている。

⑨附属校舎教員が教職大学院進学を希望した場合、附属学校園長の推薦により受験が可能となり、一定の配慮が行われる。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

①創立以来、特別な教育環境のもとで、高い水準の教育活動が行われていると受け止められている。結果的に、いわゆる難関大学への合格者の多い公立高校への進学者数が県内で最多となっている。県内有数の進学とされている。

②入学選考試験で、抽選がなくなり、実力本位の入学選考になったと受け止められている。

③生徒が教育研究の対象になっていることが質の高い教育を受ける機会であると認識されている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

①教育研究の実践場として教員養成系大学に附属学校は不可欠であることを、全国的に発信する必要があると考えていることから、教育実習の在り方を、附属中学校から大学へ提案した。従来行われていた6月、9月の2回の実習を、9月に集約し1回とした。受入人数が約130名となることから前期、後期で半数ずつ受け入れるが、期間のはじめの3日間は共通に実習することとし、受入側の負担軽減も図った。また、大学教員が指導している学生の授業参観に来ることが難しい状況もあることから、授業を録画し、生中継をしたり、再生したりして検討をする機会を持つようにした。アーカイブ化することについても検討を進めている。附属学校ならではの取組であり、撮影も学生が行う。このような機会を通じて、教育実習がより効果的になると考えている。

②実習生に対する事前指導では、具体的に注意すべき言動を上げて、生徒の人権侵害とならないよう厳しく指導している。大学側もちろんであるが、生徒の前に立つ教師としての心構えを確実に持たせたいと考え、附属中学校の教員からもきめ細やかな指導をしている。問題が発生した場合には、大学実習委員会の指導の下、特別な実習として附属中学校副校長が直接指導をする。事由により生徒の前に立たないような配慮も行う。行政担当者等に厳しい指導の下で行われている実習であることへの理解を促すように努めていきたい。③附属学校が先進的、先導的モデルとなるためには、予算獲得のための方策を練る必要がある。そのためには、附属学校の存在意義が、遠い将来に大きな影響を与える人材を育てているということが重要だと考える。各県レベルでなく、全国、世界レベルで活躍する人材を、今、附属学校で育てているということを強調しておくことが不可欠である。その具体的な一つが、「研究開発学校指定」と考える。附属学校が常に研究開発学校として認知されるようにすることが大切だと考える。附属学校が市民権を得ているとは言い切れないところが歯がゆいと感じているので、特別な学校としての意義は、研究開発学校としての期待としてとらえたい。



附属中学校

○生徒 定員：11学年男女各80名、4学級、計12学級、生徒数約4名（H28.5.1現在）
 ○教員 人事定数：教諭：県15(2)、仙台市8(3)、20代2(1)、30代15(2)、40代5(2)、50代1、1は女子、内教。

○沿革
 昭和22年 宮城附属中学校男子部附属中学校、同女子部附属中学校
 平成16年 国立大学法人宮城教育大学附属中学校
 平成28年 創立70周年記念式典(同窓会、後援会からエアコン寄贈)
 卒業生数 約11,500名



○地域のモデル的役割～各種の実践研究とその普及(最近3年間)

文科科学省	研究開発型校 (H26～28) 「高度情報化社会の充実にデジタルスキルを活用して新たな価値を創造できる実践力を育成する技術・情報科の創設を核とした教育課程の研究開発」	英語教育強化拠点事業協力校 (H27～28、附属小が協定) 附属小、附属中、仙台二高、宮城一高、宮城教育大学が連携し、一貫したLW-00形式でOカリキュラムの編成	道徳教育の根本的改善先進校に係る支援事業協力校 (H28、附属小が委託) 特別の教科連携の実践研究に係る実践研究
	課題解決に向けた主体的・協働的な学びの推進事業委託事業 (H28) 「中・高校生の社会参加に係る実践力育成のための調査研究」	課題解決に向けた主体的・協働的な学びの推進事業委託事業 (H27) 「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究」	パナソニック教育財団の協賛研究 (H27)
外部機関		日本教育学会共同研究員 地域支部共同研究員 (H27)	第58次南極観測隊同行者 (H28.2.10に南極後援)

公開研究会 (毎年度) 共同研究テーマに基づく実践研究の公開 028：新設教科を含む10教科、15コマ、約300名参加、大学教員が研究協力者、公立中学校長等が指導・助言者、公立中教諭が司会者



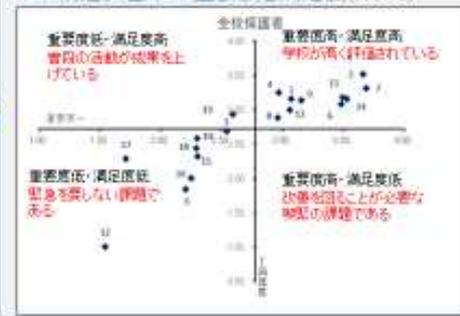
○教育実習～学生本位、現場を知る

○9年次学生 (約130名、10日間)
 ・二重履修の解消のための実習期間の変更
 ・教員志望者の意欲を高める指導
 ○教職大学院1年生(延べ20名、20日間)
 ○教職大学院スリートマスター2年生(2名、週1日)
 ・授業実践、行事参加、管理職からの講話、教員の補助等

○地域の指導的役割～研修会講師等、異動後の活躍

・国・県・地区等研修会講師、地区教研等役員・講師、各種研究会授業提供
 ・公立中学校長・教頭、各教委管理主事・指導主事、センター指導主事

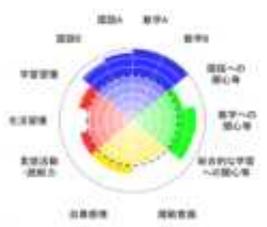
○本校選択基準の重要度と満足度(H28.10)



○特色のある取組例

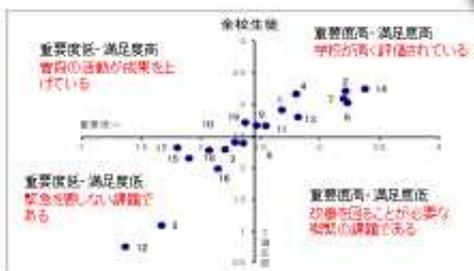
- 総合学習～昭和48年から、生徒が自らのテーマを解決する調査研究活動。現在の課題が未来の課題であると考え、実社会との接点を重視した課題解決を目指す。1年(仙台市内3日間) 2年(東北地方2泊3日) 3年(関東地方、2泊3日)
- 遠隔地との交流授業～平成26年から、テレビ会議による弘前大学附属中などとの1年理科(地学領域)での実践。
- 各種講演会～学校近隣地域住民、仙台市内全中学校保護者、関係高校保護者、大学生等対象、附属中の地域貢献の一環。

○生徒質問紙調査(全国学力・学習状況調査)



○学力が高い
 ○総合的な学習への取組がよい(総合学習としてのプログラム(完成度が高い))
 △規範意識が低い(小学校から一緒に、学校が落ち着いていて問題行動が少ない、求められる基準が高いために、自己評価が低くなる傾向が見られる。
 △生活習慣が十分にできていない(起床、就寝時刻が不規則(塾、習い事等))

○本校選択基準の重要度と満足度(H28.10)



○保護者の評価(学校評価の一部) (H28.2)

